

「新しい東北」官民連携推進協議会

平成 30 年度 岩手県意見交換会（第 2 回） 議事要旨

平成 30 年 9 月 3 日

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】平成 30 年 9 月 3 日（月）14:00～16:00

【場 所】復興庁岩手復興局 4 階会議室

【出席者】

<会員>（所属の五十音順）

株式会社岩手銀行、岩手県、国立大学法人岩手大学、特定非営利活動法人いわて連携復興センター、復興庁総合政策班、復興庁岩手復興局

<ファシリテーター>

エイチタス株式会社

<事務局>

NEC ソリューションイノベータ株式会社

【議事概要】

1. 各団体の取組紹介

各団体が用意した資料に基づいて、各団体の紹介を行った。

2. 意見交換

資料に基づいて、ファシリテーターより説明を行った。

- ・第 1 回の意見交換会を踏まえた方向性の整理とスケジュールについて
- ・岩手県意見交換会で実施するイベント（Fw：東北 Weekly 特別編）の企画内容、事務局案 5 案について様々な視点から関わり方の切り口を見つけられるよう、事前に各団体から聞いた案をもとに立てた事務局案 5 案について、以下の議論を行った。

○事務局案 A～E 案について各団体からの意見

- ・岩手県における関係人口、交流人口という意味で地域が元気になるためにはどうすれば良いかという視点、そのためのきっかけづくりであると理解している。
- ・開催時期の 11～1 月は各種イベントと重なる。岩手県でも 12/16～17 に自治体からの応援職員など県にゆかりのある人に集まつもらうイベントを実施予定。
- ・内陸と沿岸の交流は一つのテーマになると思う。内陸からの視点として、大学生の関わりも良い。

- ・関係人口という言葉は人それぞれで捉え方が異なるため、ゲストを呼ぶ場合、誰を呼ぶかが大事になる。実践をしている方の話を聞いて自分が思う関係人口を考える、というものでも良いのではないか。
- ・それぞれの団体にとっての関係人口とは何か、ということを可視化するというのでも良いかもしれない。
- ・総論だけではなく、具体的に課題を挙げるような各論も必要だと思う。
- ・各論の切り方として、地域にとって、セクターによるもの、学生視点など複数選択肢があると良い。学生は就職先という意味合いになるため、視点は他とは違うのではないか。
- ・関係人口はどのように捉えるとどんなメリットがあるのかを、この意見交換会として示しつつも自分たちで考えていきましょう、というスタンスが大事だと思う。関係人口は手段であり、捉え方は多様であって良い。自分たちが取り組んでいる活動を関係人口という視点で捉えてみるというのも一つだろう。
- ・関係人口という言葉の定義に加えて、それをキーワードにどこに繋がっていくのか、という視点を入れることで色々な人が参加しやすくなるのではないか。「関係人口×○○」といった視点。

○具体的な方向感について

- ・「関係人口×○○」というテーマをいくつか設定し、関心のある人に集まってもらい議論していく。テーマに応じて岩手県意見交換会メンバーで役割を持って進めていく。
- ・今後は、岩手県内の他のイベントの日程も確認しつつ個別にメンバーにヒアリングをしながら、具体的な内容やテーマ、役割分担について検討をしていく。



当日風景

3. 次回開催について

- ・日時：1～3月を想定
- ・場所：復興庁岩手復興局 会議室（盛岡市）を想定
- ・議題案：イベントの効果検証

次年度活動テーマの詳細について

以上